

◆ 【御船印めぐりの旅】 - 佐渡汽船株式会社 -

「ときわ丸」に乗船して 佐渡金山と尖閣湾を訪ねる①

ときわ丸は2014年に、新潟港～両津港の航路に就航したカーフェリーで、船名は永久不変を表す「常磐」と佐渡の象徴である「朱鷺」、和らぎを示す「和」をかけ、穏やかな風の洋上を羽ばたくトキをイメージして「ときわ丸」と命名された。

「ときわ丸」は最大旅客定員が1500人で、総トン数が5380トン。全長125メートル、最大幅21・8メートル。展望ラウンジ、ブリッジ（操舵室）、2等椅子席、キッズルームなどが新設されたほか、イベントプラザも充実している。

この「ときわ丸」に乗船し、佐渡島の両津港に向かった

佐 渡 汽 船

佐渡汽船は1932年、佐渡航路で競合していた商船会社3社を新潟県の資本参画のもと統合し、現在は新潟航路（新潟～両津）、直江津航路（直江津～小木）の2航路を運航し、2隻のカーフェリー、内航貨物船1隻、3隻のジェットフォイルを就航させている。水中翼船・ポーイング929（ジェットフォイル）は1977年、日本で初めて定期航路に就航したものの。

佐 渡 島

日本海に浮かぶ佐渡島は沖縄本島の3分の2ほどの大きさで、約6万人が住む。北に大佐渡山地、南に小佐渡山地がそびえ、その間に国仲平野が広がる。都から配流された文化人などが伝えた京文化が根付き、中でも能が盛ん。特産の米や、沖合で交わる暖流と寒流がもたらす魚介類なども豊富。

両 津 港

古くから漁港として栄え、江戸時代には相川金銀山の隆盛に連れて物資の出入りが盛んになり、西廻り航路の船も往来した。明治元（1869）年の11月に新潟港が開港五港に指定され、明治18（1885）年には定期船が就航し、それまで佐渡の主要な玄関口となっていた小木港に代わって、両津港が主要な玄関口となり、新潟県内第一の水産物水揚げ港としても発展した。

佐渡島東部の両津港から、車で国仲平野を西へ走る。稲刈りを終えたばかりの田が広がる。1時間ほど走ると、前方に日本海の濃い青が見えてきた。

御 船 印

一般社団法人日本旅客船協会の公認事業である「御船印めぐりプロジェクト」では、参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができる。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、旅客船や観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの